

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	青少年の社会参加・体験活動の機会づくりに要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	4	1	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	135青少年の健全育成	担当課室長	青木 真也			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	青少年関係団体間の連携をより推進し、事業のさらなる充実化を図っていく。また補助金交付団体に対し、「ふるさと意識醸成(やがて故郷に変わる街の実現)」に繋げるため、青少年の思い出づくりの積み重ねを視点すべく意見交換を実施し、事業の有効性を高める。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	地域及び関係団体が連携し、子ども達に様々な体験を提供することで、ふるさと意識醸成や各事業の効率性を高める。
②①に基づく取組み結果	鎌ヶ谷に住み続けたいというふるさと意識醸成に繋げるため、子ども会とタイアップし、地域の資源を活用したリアルな職業体験「まちまるごとKids@Live」を実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	青少年及び関係団体	意図(対象をどうするのか)	青少年健全育成及び団体の活性化
②事務事業の概要	青少年への自然体験・社会体験の機会提供及び地域ボランティア、関係団体の活動支援			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	家庭状況の変化等で、青少年の異年齢交流、自然及び社会体験等の社会形成に必要な機会が減少し、その機会を事業として求めるニーズは年々高まっている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	近年、会員数の減少等が問題となっている子ども会とのタイアップ事業を展開することで、子ども会事業の更なる魅力の向上と地域資源を活用したリアルな職業体験「Kids@Live」を試行的に実施した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i 元気っ子ゼミナール参加者数	48	58	59	人	業務取得
	ii 成人の日記念行事実行委員会議数	12	13	24	回	業務取得
	iii 各団体活動数	154	151	152	回	業務取得
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算	
事業費(千円)	5,580	6,829	金額(千円)		内容	
			960	成人式会場設営等委託		
国支出金(千円)			357	成人式記念行事実行委員会負担金		
県支出金(千円)	235	235		235		
市債その他(千円)			2,408	青少年教育関係団体等活動補助金		
一般財源(千円)	5,345	6,594		5,435		

IV 評価・検討

①課題	社会の規範意識が希薄化する中、地域全体の教育力での青少年の育みが重要視されており、熱意ある地域の支援者及び団体の確保が課題である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	コストを抑えつつ質の高い事業の実施に向けて、団体・ボランティア等が効果的な補助金活用しているか精査を要する。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越	
		H27⇒28繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	平成29年度への繰越額(単位:千円)					

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	生涯学習推進センターの管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	2	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	12いきいきとした生涯学習の推進	担当課室長	青木 真也			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	現人員体制の可能範囲で、市民の好奇心を「育む」ため、生涯学習推進センター内のディスプレイを工夫し、実施する。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	市民に生涯学習情報を提供するため、掲示物等のディスプレイの工夫を継続し魅力ある施設運営を行う。
②①に基づく取組み結果	市民が気持ち良く施設利用でき、オリンピックなど、タイムリーな生涯学習情報を提供し関心をもってもらうようディスプレイを工夫した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	一般市民 関係機関職員	意図(対象をどうするのか)	活力のある生涯学習社会の実現
②事務事業の概要	生涯学習施設の供用及び生涯学習情報の提供			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	自己実現の場として、さらには社会参加への機会の場として、利用者は増加し、学習意欲の多様化が進んでいくものと推察される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	利用者の増加に対応し、システムの効果的な利用を行い、さらに効率よく「施設予約」などができる利用しやすいシステムの構築を図った。また、施設利用者にとって快適かつ好奇心を「育む」ためのディスプレイを、職員アイデアにより実施した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	生涯学習推進センター利用件数	2,085	1,449	1,835	件	業務取得
	ii	インターネットアクセス件数	32,058	91,465	120,997	件	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳			平成29年度予算	
事業費(千円)	28,576	31,139	金額(千円)		内容	38,033	
	国支出金(千円)		10,753		使用料及び賃借料		
	県支出金(千円)		6,936		賃金		
	市債その他(千円)		5,957		委託料		
	一般財源(千円)	28,576	31,139	5,079	需用費	38,033	

IV 評価・検討

①課題	年々市民の学習意欲の多様化・専門化が進んでおり、学習機会の増加が求められている。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	コスト削減のための人員体制や組織の統廃合を進めるなかで、多様な学習要求に対してサービスの向上を図るため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越	
		H27⇒28繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由			流用・充当			
	平成29年度への繰越額(単位:千円)					

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	学習センターの管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	121いきいきとした生涯学習の推進	担当課室長	青木 真也			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	さらなる学習機会の提供に努め、事業の改善等を進める。改善の方向性として、実施する講座の講師を、可能な範囲で、市内の方に依頼することで、まちの魅力再発見に繋げる。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	「人材育成」の視点をより強く持って、事業を実施していく。 市民との企画事業について、検討から事業実施するという作業が、「地域のため、市民のため」に繋がり、その成功体験がまち(故郷)を思う気持ちに結びつくため、企画事業に参画する人を増やそうべく募集のPRに力を入れる。
②①に基づく取組み結果	学習センターの講座にて市民の方に講師を依頼し実施した。主なもの①東部学習センター市民セミナー:第二中学校卒業生の大学生を講師に招き「ラグビーの楽しさを学ぶ」②中央公民館:元教員による古典講座など。参加者アンケートでは「このような講師が市民にいる」など好評だった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	一般市民	意図(対象をどうするのか)	活力のある生涯学習社会の実現
②事務事業の概要	コスト削減のため、人員体制や事業の改善等を行いつつ、地域の学習拠点としての有効性を高める。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	学習意欲の拡大、学習サークルへの参加によって、さらに学習センターを生涯学習の場として利用する市民が増えるものと推察される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	市民の学習ニーズに応え、学習意欲を満足させるため、市民の関心があるテーマを選ぶようにし、学習内容の創意工夫に努めた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	延べ主催講座参加者数	21,725	20,294	20,550	人	業務取得
	ii	延べ施設利用者数	255,487	287,439	296,191	人	業務取得
iii							
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳			平成29年度予算	
事業費(千円)	85,726	85,618	金額(千円)		内容	97,356	
国支出金(千円)			85,618		市内5館の管理運営に要する経費		
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	85,726	85,618			97,356		

IV 評価・検討

①課題	学習ニーズの多様化・専門化及び学習意欲の向上から、こうした希望に応える講座提供が求められる。市民との企画事業については、企画委員の継続的確保が課題である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	地域の生涯学習の拠点として、市民ニーズにフレキシブルに対応できる講座内容の立案を行う必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越	
		H27⇒28繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		平成29年度への繰越額(単位:千円)				

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	非行防止対策の推進に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	4	5	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	135青少年の健全育成	担当課室長	大関 克由			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	地域等との連携を強化し「こども110番の家」の設置の啓発に努め、増設を図る。学校開放事業の運営委員会の中で「子ども安全メール」の実績を紹介するとともに、登録の啓発を行う。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	地域等との連携を強化し「こども110番の家」の設置の啓発に努め、増設を図る。学校開放事業の運営委員会の中で、「子ども安全メール」の実績を紹介するとともに、登録の啓発を行う。また、子どもを取り巻く環境として、インターネットをめぐる問題があり、職員等の研修を行う。新たに、子どもの見守り意識醸成のための取組みを策定する。
②①に基づく取組み結果	2事業について、新たに自治会回覧を行い、市内全域において、新規の登録を募った結果、ともに昨年度に比べて増加が図れた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内の青少年	意図(対象をどうするのか)	①非行の早期発見、早期指導により青少年の非行を防止する②速やかに情報を発信し青少年の安全確保を図る。
②事務事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの非行防止を図るため、定時パトロール、夜間パトロール、市内一斉パトロール等を行う。 子どもたちの安全確保を図るため、子ども安全メールにより情報を発信する。 			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	<ul style="list-style-type: none"> 小中学生による殺人事件の発生等、犯罪、非行の低年齢化が進んでいる反面、小中学生が犯罪被害者となる事件が数多く発生している。 子ども安全メールの発信に伴う、情報提供の迅速化や「こども110番の家」の増設の要望がある。 			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	補導、相談等の活動において青少年非行の早期発見、早期指導を実施することにより、青少年の健全育成の向上が図られた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	子ども安全メール登録者数	5,786	4,784	5,543	人	業務取得
	ii	地域見守り活動従事者数	1,187	1,161	1,234	人	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算		
事業費(千円)	8,367	6,383	金額(千円)	内容	7,178		
国支出金(千円)			150	青少年センター運営協議会委員報酬			
県支出金(千円)	250	250	680	青少年補導員報酬	250		
市債その他(千円)			185	青少年センターだより「緑の子」印刷			
一般財源(千円)	8,117	6,133	176	青少年補導員連絡協議会補助金	6,928		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	今後ますます低年齢層による非行が増加するとともに、犯罪被害者となるケースも増えると思われる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	家庭、学校、地域又関係機関との連携を図りながら、補導活動への協力や子どもたちの安全に関心を持ってもらうなど地域ぐるみで子ども達を見守り、子ども達が心身ともに健康で安全な生活を送れる環境をつくった。今後は、より全体的に見守り意識醸成を広げるべく、取組みを検討する必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	平成28年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H27からの繰越
		H27⇒28繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由	平成29年度への繰越額(単位:千円)				

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	図書館蔵書・資料整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	4	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	121いきいきとした生涯学習の推進	担当課室長	小林由里			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	保育園や学校、行政の関係機関との連携により子どもの読書環境を整備する。定年退職を迎えたシニア世代の憩いの場を確立する。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	保育園や学校、行政の関係機関との連携により子どもの読書環境を整備する。定年退職を迎えたシニア世代の憩いの場を確立する。
②①に基づく取組み結果	団体貸出により、関係機関との連携が確立されている。また、市民・シニア向け事業の計画をした。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	図書館利用者	意図(対象をどうするのか)	利用者の多様なニーズに応えるため、図書館資料の質的向上を図る。
②事務事業の概要	多様化・高度化する学習欲求に対応するため、図書館資料・蔵書の充実を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	昭和49年10月に条例を設置し業務を開始。その後昭和52年に市役所旧庁舎へ改修・移転し、昭和62年に現在地に図書館本館を建設した。また、市民がより身近に利用できるよう、分館を整備した。今後も本館・分館の資料の充実を図る。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	一般図書5,589冊、児童図書2,409冊、視聴覚資料148点を購入することにより、平成28年度末の蔵書数は、303,599冊となった。						
②成果を表す指標	指標名称		平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	蔵書数	301,319	303,029	303,599	冊	業務取得
	ii	図書購入数	7,779	7,876	7,998	冊	業務取得
	iii	図書貸出数	400,266	408,725	397,206	冊	業務取得
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳			平成29年度予算	
事業費(千円)	15,000	15,000	金額(千円)		内容	15,000	
	国支出金(千円)		9,696		一般図書購入:5589冊		
	県支出金(千円)		4,314		児童図書購入:2409冊		
	市債その他(千円)		990		視聴覚資料購入:148点		
	一般財源(千円)	15,000	15,000			15,000	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	様々な分野において図書、視聴覚資料の充実が求められている。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	利用者の多様化するニーズに対応するために各種分野に及ぶ図書、視聴覚資料の精査・検証が必要である。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	図書館資料購入	平成28年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額			決算額		
②計画に対する事業実績	資料収集基準に基づき図書・視聴覚資料を選定・購入	15,000	15,000	当初	15,000	15,000	H28からの繰越	0
				H27⇒28繰越			現年分	15,000
				補正				
③達成状況	完了			流用・充当				
④未完了・非着手の理由		平成29年度への繰越額(単位:千円) 0						

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	図書館情報ネットワーク整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	4	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	121いきいきとした生涯学習の推進	担当課室長	小林 由里			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	蔵書公開システムや図書館ホームページのさらなる充実を図り、インターネットによる図書の延長システム導入をする。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	蔵書公開システムや図書館ホームページのさらなる充実を図り、利用者により多くの情報を提供する。30年1月からは1年間システムの再リースを実施する。
②①に基づく取組み結果	導入した結果、ホームページアクセス数、インターネットによる予約が増加した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	図書館利用者	意図(対象をどうするか)	利用者の利便性の向上のため、市民・利用者が必要とする図書資料や情報を迅速かつ的確に提供する。
②事務事業の概要	インターネットを利用した蔵書データベースの検索及び貸出予約システムを運用する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	利用者の利便性の向上のため、市民・利用者が必要とする図書資料や情報を迅速かつ的確に提供していく必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	図書館ホームページアクセス数 168,501 件		インターネット予約数 32,269 件			
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i ホームページアクセス数	155,211	161,119	168,501	件	業務取得
	ii 予約リクエスト数	41,883	42,345	43,442	件	業務取得
	iii 延べ利用者数	122,133	122,780	120,872	人	業務取得
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳			平成29年度予算
事業費(千円)	8,249	8,249	金額(千円)	内容		8,307
国支出金(千円)			542	プロバイダー回線使用料		
県支出金(千円)			221	電話料		
市債その他(千円)			6838	図書館オンライン使用料		
一般財源(千円)	8,249	8,249	648	インターネット検索・予約システム使用料		8,307

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	インターネットの普及による情報化社会に対応するため、図書館情報システム機器(利用者用検索パソコンの設置、利用者用端末の増台)のさらなる充実を図る。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	利用者が自宅にいながら図書の検索や予約ができるシステムや図書館館内での検索システムは、今後さらに内容を充実させ拡大していく必要があるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	システム運用	平成28年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額			決算額		
②計画に対する事業実績	図書館が所蔵する図書資料をインターネットで公開し、予約貸出をする。	8,250	8,250	当初	8,250	8,249	H28からの繰越	0
				H27⇒28繰越			現年分	8,249
③達成状況	完了			補正				
④未完了・非着手の理由				流用・充当				
		平成29年度への繰越額(単位:千円) 0						

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	図書館改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	4	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	121いきいきとした生涯学習の推進	担当課室長	小林由里			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成28年度新規事業のため、評価なし。	③平成29年度に取組む改革・改善内容	適正な施設の管理運営のため、28年度の空調設備改修工事設計委託の実施完了を基に、空調設備改修工事を実施し、利用者サービスの向上を図る。
②①に基づく取組み結果	平成28年度新規事業のため、取組み結果なし。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	図書館利用者	意図(対象をどうするか)	適正な施設管理運営により、利用者の方に快適に図書館をご利用いただく。
②事務事業の概要		老朽化した高圧ケーブルの交換工事設計委託及び高圧ケーブル交換工事、また29年度の空調設備改修工事に向けて、空調設備改修工事設計委託を行う。		
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)		図書館は昭和62年4月に開館以来30年を経過し、空調設備の老朽化による利用者環境や資料の保管等への影響が懸念されている。		

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果		高圧ケーブル交換工事設計委託及び高圧ケーブル交換工事、空調設備改修工事設計委託の実施をした。					
②成果を表す指標		指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	算定根拠
	i	工事件数			3	件	業務取得
	ii	必要箇所			3	箇所	業務取得
	iii	延べ利用者数			120,872	人	業務取得
③事務事業のコスト		平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳			平成29年度予算
事業費(千円)			4,982	金額(千円)	内容		79,231
	国支出金(千円)			462	高圧ケーブル交換工事設計委託		
	県支出金(千円)			2484	高圧ケーブル交換工事		
	市債その他(千円)			2036	空調設備改修設計委託		65,400
	一般財源(千円)	0	4,982				13,831

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	図書館の経年劣化の進捗に伴う改修が必要である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	適正な施設の管理運営のため、高圧ケーブル交換工事設計委託及び交換工事、空調設備改修設計委託を実施したため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	高圧ケーブル交換工事設計委託、高圧ケーブル交換工事、空調設備改修工事設計委託	平成28年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額			決算額		
②計画に対する事業実績	29年度の空調工事改修工事に向けた設計委託、高圧ケーブル交換工事を完了した。	7,657	6,867	当初	7,657	4,982	H28からの繰越	0
				H27→28繰越				
				補正				
③達成状況	完了			流用・充当	▲790		現年分	4,982
④未完了・非着手の理由		平成29年度への繰越額(単位:千円) 0						

平成29年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	学習センター等改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	生涯学習推進課			
施策	121いきいきとした生涯学習の推進	担当課室長	青木 真也			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	東初富公民館の外壁・屋上防水改修工事設計委託を行う。	③平成29年度に取り組む改革・改善内容	東初富公民館の外壁・屋上防水改修工事を行う。
②①に基づく取り組み結果	東初富公民館の外壁・屋上防水改修工事設計委託を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	生涯学習活動を行う市民	意図(対象をどうするのか)	改修の実施により利用環境悪化を防ぎ、環境の快適化により施設の利用促進に資する。
②事務事業の概要	市内の各学習センターのうち、東初富公民館の外壁・屋上防水改修工事設計委託を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	ほとんどの施設が老朽化しているため、今後も改修工事は必要であると予想される。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成28年度の事業の成果	東初富公民館の外壁・屋上防水改修工事設計委託を完了した。				
②成果を表す指標	指標名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	算定根拠
	i 工事件数	13	4	0	業務取得
	ii				
	iii				
③事務事業のコスト	平成27年度決算	平成28年度決算	平成28年度決算(事業費)の主な内訳		平成29年度予算
事業費(千円)	166,285	1,598	金額(千円)	内容	50,988
国支出金(千円)			1,598	設計委託	
県支出金(千円)					
市債その他(千円)	151,100				38,200
一般財源(千円)	15,185	1,598			12,788

IV 評価・検討

①課題	施設の老朽化に伴い、修繕箇所が増加することが予想される。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	施設の老朽化に伴う計画的な改修は必要不可欠であり、市民の生涯学習活動の場を安定的に提供するため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成28年度の計画	東初富公民館の外壁・屋上防水改修工事設計	平成28年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	計画どおり実施した。	2,762	2,762	当初	2,762	1,598	H27からの繰越	0
				H27⇒28繰越	0			
③達成状況	完了			補正	0		現年分	1,598
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0			
		平成29年度への繰越額(単位:千円)						0